



写真:オオカメノキの冬芽 (撮影:平成27年1月28日)

「冬の樹木」

冬の樹木には、樹皮、枝ぶり、冬芽^{ふゆめ}の様子など、よく観察するとそれぞれ特徴があり楽しめます。

標 高1200mのえびの高原には、落葉広葉樹が広く分布しています。冬には葉が落ちて、森全体がすっきりと明るくなり、冬枯れの枝間を冷たい風が吹き抜けます。夏には茂った葉に隠れて、なかなか見つけにくい野鳥を観察するのも適しています。エナガやルリビタキなどのかわいらしい小鳥の姿を見ることができません。

冬の樹木には、樹皮、枝ぶり、冬芽の様子など、よく観察するとそれぞれ特徴があり楽しめます。たとえば、ミズナラの樹皮はゴツゴツとしていて、厳しい冬の寒さに耐える力強さ、カエデの仲間には、枝を対称に伸ばし、こずえに赤みがあるなど比較的に見分けやすい特徴を持っています。

冬には、枝先に葉や花の芽を寒さから守る「冬芽」を見ることが出来ます。種によってさまざまな形をしています。オオカメノキの冬芽は、ウサギの頭の様な形をしていて、両手を広げて喜んでくれる人のようにも見えます。冬芽は、厳しい冬の寒さに耐えて、春の芽吹きを静かに待っています。
(文/えびのエコミュージアムセンター)

冬芽 夏から秋に形成され、休眠・越冬して、春に伸びて葉や花になる芽。